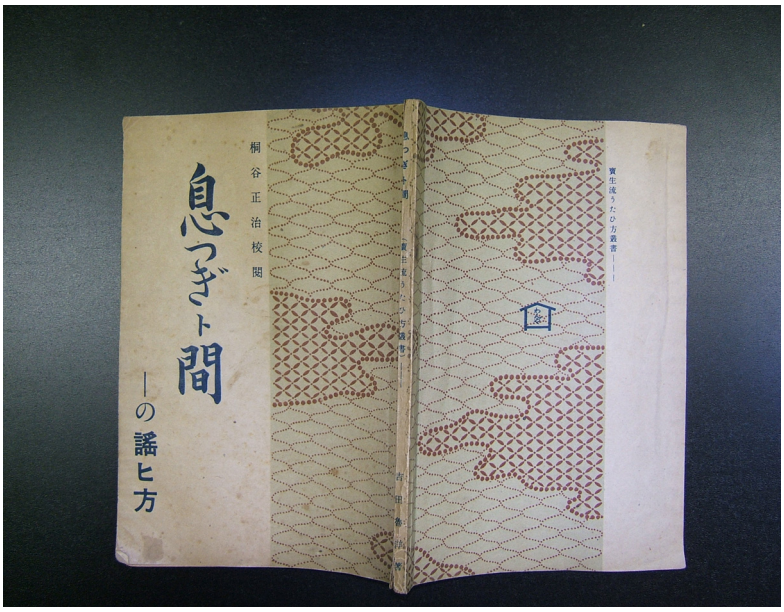
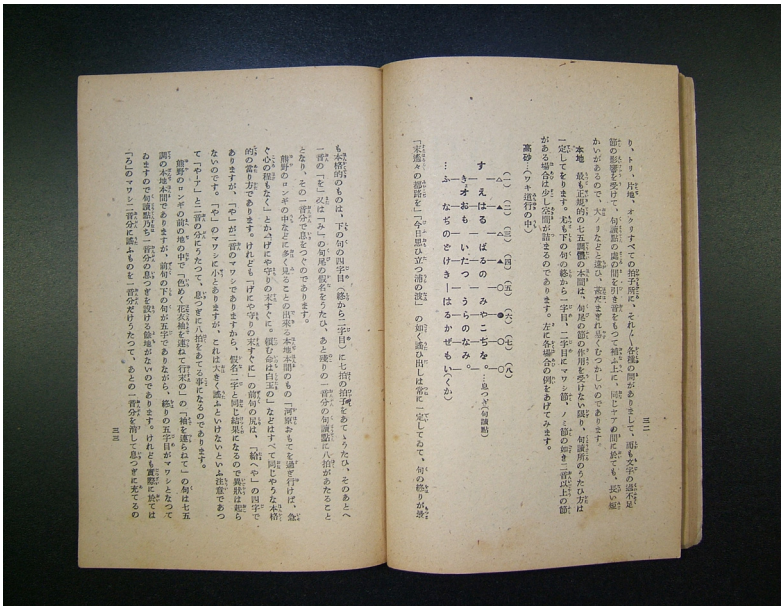
吉田魯洋　『息つぎと間の謡ひ方　宝生流うたひ方叢書』

８９頁と同一の内容だが、紙質は８９頁の方がよい。「拍子上の間の謡ひ出しは常に一定不変なのでありますから、その謡ひ出しの一音前に於てする息つぎも不変であります。さうしてその息つぎの一音分は、ゆったりとした謡ならばゆったりと息つぎの時間があり、早いところでは自然息つぎが忙しいことになるのであります」（六二頁）。つまり、間が正確にわかれば息つぎはそれに自動的に付随するのである。結局、本書の要点はこれにつきる。その意味で本書は、叢書中、冗長な一冊であると言ってよい。





標題　内　題…息つぎと間の謡ひ方　宝生流うたひ方叢書

標題紙…宝生流うたひ方叢書　息つぎと間の謡ひ方

奥　附…〔宝生流うたひ方叢書〕息つぎと間の謡ひ方

その他…息つぎと間の謡ひ方　宝生流うたひ方叢書（目次）、息つぎト間の謡ヒ方（表紙）、息つぎト間　宝生流うたひ方叢書（背）

著者　奥　附…吉田只雄（魯洋）

その他の場所…吉田魯洋（標題紙・背）

出版　版　次…第四版

出版地…東京

出版社…わんや書店

出版年…昭和26（1951）

その他の場所…―

形態　冊　数…一冊　頁　数…七七頁

寸　法…18×13（cm）

状態　写本版本の別…版本　現物複写の別…現物

備考　初版は昭和一〇（一九三五）年。桐谷正治校閲。